



モミジガサの栽培方法

モミジガサはキク科の多年草で、東北地方では主にシドケと呼ばれ、おいしい山菜として有名です。徳島県内でも、東祖谷山村をはじめとする剣山周辺の山間部ではワタナと称され食べられてきました。

三好郡ではこのワタナを商品化しようと、栽培技術と販路開拓について関係機関が力を合わせて検討しています。農業研究所では主に現地試験で栽培方法を開発しています。

1 種子増殖

モミジガサは主に種子で増殖されます。採種時期を調査した結果、東祖谷山村で10月下旬から11月中旬が適期でした。種子は乾燥すると発芽しないので播種まで湿潤貯蔵します。

写真1：左は湿潤貯蔵種子、右は乾燥種子の発芽状況。円内は種子→



2 挿し芽増殖

挿し芽で増殖すると収穫までの期間が短縮されます。挿し芽の適期は5月下旬まで、用土はバーミキュライトが適しました。

写真2：左からバーミキュライト、パーライト、川砂、赤土。

上段は頂芽挿し→



3 林間栽培の検討

杉林内では間伐、枝打ちされた明るい林内が生育良好でした。

写真3：東祖谷山村菅生での現地試験（定植2年目7月）→



4 一年目の遮光率

畑では遮光が必要ですが、定植1年目の遮光率は60～80%遮光とすることで欠株が少なく生育が良好でした。

5 収穫

定植後3年目から本格的に収穫可能となります。収穫期は4月中旬～5月上旬、長さ20cm、葉数4枚、茎の太さ6mm程度の芽が、一株から4本前後収穫できます。

写真4：収穫したモミジガサ→



問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

農業研究所

中山間担当

TEL (0883) 72-0239

FAX (0883) 72-6868

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>